

## 日本生活体験学習学会誌の発刊にあたって

横山, 正幸  
福岡教育大学 | 日本生活体験学習学会会長

<https://doi.org/10.15017/8997>

---

出版情報 : 生活体験学習研究. 1, pp.1-2, 2001-01-01. 日本生活体験学習学会  
バージョン :  
権利関係 :

## 日本生活体験学習学会誌の発刊にあたって

日本生活体験学習学会会長 横山 正 幸

子どもは、本来、大きな発達の可能性をもって生まれてきます。皆、立派な大人になろうとしています。ところが、今日、わが国の子ども達は年齢相応の自立が大変難しくなっております。基本的な生活習慣や生活技能が年齢相応に身につけていない子が少なくないのです。不登校、いじめ、学級崩壊、無気力化、ちょっとしたことでキレる子どもなど新聞やテレビを賑わす問題も頻発しております。子どもだけではなく、ひきこもりや、育児不安、さらには幼児虐待など若い世代の問題も深刻化してきています。このような状態であっては当然彼らの将来が懸念されます。

子ども達の自立を阻害し、様々な問題行動を引き起こしている原因は何でしょうか。この背景には、子どもの自主性、社会性、耐性、道徳性など「生きる力」の未発達があると考えられます。では、なぜ生きる力が育たないのでしょうか。その最も大きな原因の一つは、年齢相応に自ら体験すべきことを直接、体験していない、すなわち体験欠損にあると思われれます。なかでも日常的なごくありふれた生活体験が極めて少なくなっていることです。子どもの生きる力は、年齢に伴って自然に現れてくるものではありません。発達段階に応じ、体験すべきことを体験することによって初めて顕在化するのです。それは、ちょうどコンピュータにたとえることができるでしょう。コンピュータは、それがどんなに性能の良い優れたものであっても、最初に情報が入力されなくては何の働きもしません。子どもの発達も同じです。頭脳という素晴らしいコンピュータに五感を通して体験という情報が入らなければ心は育たないのです。

近年、子どものもつ発達の可能性を伸ばすには、生活体験をさせることが大切だということが各方面から強調されるようになってきました。そうした状況の中で、子ども達に生活体験をさせる取り組みが、今、全国各地で展開されています。その先駆けは、1983年に始まる福岡県庄内町の生活体験学校の実践です。この生活体験学習学会のきっかけは、この生活体験学校にあります。今回、学会の設立を呼び掛けたメンバーは、いずれもこれまで様々なかたちで生活体験学校に関わってきた者です。1998年の4月、生活体験学校に生活文化センターができ、そのこけらおとしを記念してシンポジウムが開かれました。その折、シンポジストの一人として登壇した長崎大学の猪山勝利教授から各地で孤立的に実践を行っている人々による交流会の必要性が提起されました。これが本学会設立のきっかけです。

この学会の目的は、あまりにも日常的であるがために、これまで学問の対象としては認識されず、必ずしも真剣に考えられてこなかった炊事、掃除、洗濯など、子どもの生活体験に目を向け、学術的な研究を深めると同時に実践家と共同して実践をより確かなものとし、子ども達の現状の改善に寄与することにあります。したがって、第一の特徴は、研究者と実践家からなる学会を目指していることです。また、第二の特徴は、教育学、心理学、児童学、保育学、家政学、医学など様々な学問領域の研究者が参加する学際的学会を目指しているということです。さらに、第三の特徴は、教育委員会など行政との連携を積極的に重視した学会であるということです。それは、志はあっても個人や学会だけでは効果的な実践はできないからです。

学会の活動としては、これまで1999年9月に「第1回生活体験学習実践交流会」が、2000年9月に「第2回生活体験学習実践交流会」が、そして2000年3月には「第1回研究大会」が開催され、いずれも盛会裡に終わっています。また、学会通信も5号を数え、会員に学会活動の情報を提供しています。そして、この度懸案の学会誌を発刊するはこびとなりました。この学会誌発刊の目的は、生活体験学習に関わる多様な実践研究や理論研究などを掲載

し、生活体験学習の実践と研究の発展に寄与することにあります。同時に発表の場をつくることによって若い有能な実践家や研究者が育つことを強く願っています。日本生活体験学習学会は、まだ、始まったばかりで本当に小さく、若い学会です。しかし、この学会誌を共通のよりどころとして、子ども達の未来に夢をもつ者同士、お互い専門的、実践的力を高め、子どもの生活体験への理解者を増やしていくことができれば大変幸いです。